

### (3)黒潮町立大方中学校の取組

宮川 昭二 (黒潮町立大方中学校 主幹教諭)

2.大方中学校は海拔 18.9mのところにあります。予想最大の津波が来るとここは沈んでしまいます。しかし、来ないだろうという思いで、町民は中学校から下の 800mのところに住んでいます。大方中学校にいれば大丈夫じゃないかという風に思っていますが、もう少し上の方の児童公園への避難をするということになっています。

3.浜で遠足をしているので、遠足の終わり頃になると生徒会の者が放送して逃げる、という避難訓練をしています。海岸からすぐ近くに防災タワーがあります。5~6分で行けるところにあるので、ここへ避難をして、並ぶということをしています。ここでの課題は、教職員の平均年齢が 49 歳なので、生徒に比べて教職員の方が遅いことです。ですので、教職員の方の足をどう速くするかという課題が残っています。

4.図書館の横に防災タワーが設置されています。防災タワーは津波が想定されていますので、ここが一番最悪のときに逃げる場所です。この周辺はここ以外に逃げるところはありませんので、そういうことも子どもたちに教えていくことも大事だと思います。

5-6.小中高合同の避難訓練のため、合同の事前会議をやっています。2回目ということで徐々にスピードも速くなってきています。児童公園は 38.4mと町内で一番高いところにありますので、ここへ逃げ込むということにしています。高校生たちが、保育園児を助けてリヤカーで運んでいく姿を第 2 回目では見ることができました。課題としては、保育園児が集まって、小学生が集まって、中学生、高校生と、保育園児が一番早く、高校生が一番遅いという課題が残っています。それは、逃げるときに、高校生は大丈夫だろうと思って、ゆっくり歩いているからです。そういう子の意識を高めることが課題として残っています。終了後、中学校では高知大から講師を招きまして、南海大地震についての講演をやっていただき、防災意識を高めることをセットで行っています。

7.黒潮町では一斉に 8 月 31 日に防災訓練が行われます。部活動も中止にし、積極的に地域に参加することを促しています。学校だけでやるというかたちではなく、地域へ子ど



**大方中学校の概要**

生徒 160人  
教職員 24人

大方中学校の位置

【黒潮町における津波の浸水地域について】  
住民の8割が浸水地域に住んでいるとされる

**1回目避難訓練(4月11日)1年生歓迎遠足**

**1回目避難訓練(4月11日)避難タワー**

**2回目保小中高合同避難訓練(5月23日)**

もたちを参加させようとしています、まだまだ参加率は低いです。ですので、自分たちで参加して、自分たちの力でやっていかなければいけない、ということ意識させたいと思っています。

8. 保育所に災害対策本部が設置されます。役場は低いところにあるので、ここへ本部を設置することになっています。
9. 避難訓練の帰りの様子です。私が所属している地区の防災訓練です。缶詰の配布や炊き出しをしているなど、各地区の防災訓練によって特色があります。
10. 防災教育を学ぶということで9月1日、私が夏に釜石で勉強させていただいてことを子どもたち（全校生徒 160人）に発表しました。避難の三原則を確認していき、「自分たちで最前を尽くして逃げてくれ」という話をしました。
- 11-12. 津波防災の日に県から出ている副読本「命を守る防災BOOK」を使って授業をし、部活時に避難訓練を行いました。避難場所に到着後、地区の班長さんに話していただきました。初めての試みとして、教員はつかず、本部のテントを野球部中心に設置してみました。リーダーが自然に発生し、思ったよりスムーズに進みました。災害時については、中学生が自分たちで進んで動けるような子どもたちを作りたいと話しています。
15. 課題として、下校時の避難訓練が実施できていません。釜石で言われていたように、自分たちでどこにいても逃げることができる子どもたちを作らなければ、34mの津波が来たら駄目です。自分たちがどこにいても避難経路がわかる子どもを作りたいです。1～3年生まで計画的に防災教育を実施していくカリキュラムを作りたいと思っています。それを作ることによって、片田先生も言われていたような学力向上にもつなげていくことができます。逃げて避難を終えた後も子どもたちは生きていかなければいけないので、郷土を愛し、自分たちで生きていける子どもを作っていきたいと思っています。
16. 黒潮町長は「犠牲者ゼロの町、黒潮町」を宣言しました。そういうことができるような子どもたち、黒潮町に残って黒潮町を発展させる子どもたちを作っていきたいと思っています。

**釜石の防災教育に学ぶ(9月1日)主幹教諭の発表**

防災教育の重要性を再認識

子どもたちの命を守った「3つの教え」

**避難の三原則**

- ・ 想定を信じるな
- ・ どんな時でも最善を尽くす
- ・ 率先避難者になる

・ 群馬大学理工学研究院 環境創生部門 片田敏孝教授

10

---

**(11月5日)「副読本を使った」防災教育の授業**







---

**4回目部活時における避難訓練(11月5日)**






---

**平成26年度避難訓練の成果と課題**

**【成果】**

- (1) 避難訓練の回数を重ねるほど、避難に要する時間が少なくなっていった。
- (2) 事前確認会を開催するなど、保小中高において連携して避難訓練を実施することができた。
- (3) 地域で実施される避難訓練に参加する生徒が増加してきた。

**【課題】**

- (1) 下校時の避難訓練が実施できておらず、関係機関と協力して、来年度以降実施していきたい。
- (2) 防災学習の年間計画を見直し、1～3年生までの系統的な防災学習を実施する。

15

---

**大方中学校の防災教育で目指すこと**

命を守る「津波てんでんこ」

- (1) それぞれの場所で、それぞれが確実に避難し
- (2) そのことを信じて「**自分自身が確実に避難する**」こと
- (3) そして、一度避難したら絶対に元「**戻らない**」こと

⇒ 「犠牲者ゼロの町、黒潮町」

(黒潮町長の宣言)

16